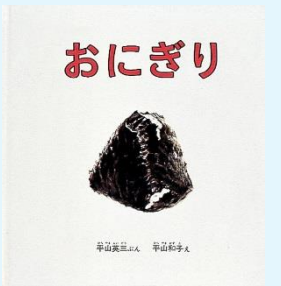


ゆうあいえほんだより

2019年7月発行

Akiko Aoki

6月中頃から田植えが始まり、田んぼに水が張られ苗が規則正しく並んで植えられている姿を見ると美しい日本の風景だなと感じる今日この頃。なかなか雨が降らないので、保育園で植えた野菜の苗にもせっせとお水やりをしています(ようやく先日梅雨入りしましたね。)。夏や秋に向けてしっかり育てていく様子を子どもたちと一緒に毎日見守りたいなと思います。今月は、田植えにちなんで『お米』をテーマに絵本を選んでみました。どの絵本も読むとお腹が空いてくるので“覚悟”が必要です。



おにぎり

文：平山英三・絵：平山和子
出版社：福音館書店

米と言えば、おにぎりですね。“いちご”や“くだもの”でおなじみの平山和子さんが絵を描いているので、お米がつやつやしてすぐにでも食べたくてしまいます。おにぎりをにぎる手に温かみがあり、手しか描かれていないのにぎっている人の心まで表現されている気がします。



おべんとうばこのうた

構成・絵：さいとうしのぶ
出版社：ひさかたチャイルド

どなたも一度は聞いたことがあるわらべうたが絵本になっています。お弁当の具材が次々にお弁当の中へ入っていくのですが、動きが愉快で、その道中にちょっとした物語も描かれています。子どもと触れ合い遊びも出来るし、絵本としても楽しめ、おすすめの一冊です。



おむすびさんちのたうえのひ

作・絵：かがくいひろし
出版社：PHP 研究所

田植えという伝統的な日本の文化を作者の豊かな発想で描かれています。タイトル通りおむすびさんちの田植えを村の皆で行う姿が描かれているのですが、さすがだなと思うのは、最後に「あしたはおいなりさんちのたうえですね。」で終わるところ。古くから田植えは集落で手伝い合う共同作業ということをさりげなく描いています。

【今月の絵本作家】ヨシタケシンスケさん



情熱大陸でも紹介されたヨシタケシンスケさん。思考回路がどうなっているか見てみたくなる作家さんの一人です。初めてヨシタケシンスケさんの絵本を我が家に迎えたのは『なつみはなんにでもなれる』でした。子どもの発想力に読み聞かせをしているこちらが笑わされ、日々の娘と母とのやり取りが共感の嵐で大好きになりました。ヨシタケさんの絵本は、小さな疑問やきっかけからさまざまな想像を発展させて物語が進んでいきます。その発想力や着眼点にいつも驚き、共感し、脱帽させられています。

